



安齋正弘

福島県生まれ。木耐協設立当初から技術顧問として組合員の指導や技術開発を行う。2007年国土交通大臣表彰。趣味は社交ダンス

既存住宅を筋かいや、構造用合板を直接張って補強するのはよいですが、気密のある住宅が出来るようになり通気工法等を行わないとますます木材が腐ってしまうと思います。その点はどのようにお考えでしょうか?

Q96

結露防止や、結露水、雨水の適切な処理等が大切です。

A

通気工法でないと木材が必ず腐るものではありません。

防露薬剤で処理した木材を使用したり、換気を積極的に行ったり、開放型ストーブを使用しないなどの対策でも木材を腐らせないことはできます。

## 考察

木材の腐朽には条件がありますよね。①温度、②水分、③酸素、④栄養、の4要因でした。上記のAにはその具体策の例として挙げていますが、これら要因の一つでも欠けるか不足すれば腐朽菌は活動できない、或いは活動が鈍るので人為的に調整可能と思われる「水分管理」をメインに色々知恵を

絞って対策を練ることになります。本技術通信でも以前特集を組んだことがあるのでご覧ください。(バックナンバー、2009年8月~2010年10月までのもの)劣化の原因を完全には除去できない場合に備えて、定期的に点検できるようにしておく事も重要なポイントです。

(指針P.52)劣化度による低減係数解説中「調査にかかる時間は2時間程度……」とあるが、全ての項目の調査時間を想定しているのでしょうか。劣化度(部位・材料、劣化事象)の調査の時間を想定しているのでしょうか?

Q97

A 劣化度の調査時間を想定していますが、実際には構造調査と劣化調査は同時に行なわれることを想定しています。

## 考察

確かに建物の調査は劣化事象も含めて同時進行です。「目安」としての2時間程度というのはホントに目安であって、物件(規模・工法・他)差、個人差、人数、使用機器、経験差…等の要素で左右され、同じ人でもバラツキがあります。従ってあまりとらわれる必要はないような気がします。(ちなみに小生は「手のろ」なため、結構時間

を要していました。最近現場に行くことはありませんが…)

劣化に関しては、調査すべき重要ポイントに優先順位をつけて調査する必要があります。診断者によって劣化の判断はバラつくものですが、「建物全体への影響を与えるものか」を意識して調査・判断するようにしましょう。

◎今号のテーマ

# 一般診断法 【劣化・腐朽】 についての考察

「2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法」の質問・回答集の確認

東日本の震災から早くも5年が過ぎた。やっかいな原発事故処理とからんで復旧は思惑通りには進まない。福島県出身の私としてもいらいだつ気持ちは禁じ得ないでいる。早く故郷に戻れる日がきて欲しい。人の世と自然は別物で我々の心とは拘りなく春になれば花が咲き乱れ、心地よい薫風も頬をなでていく。

そして時に荒れ狂い、人々を痛めつける。今日も埼玉の地から故郷を思う。

さあ、今月もこの回答集をめくり、内容・趣旨を確認し日々の実務に活かしてまいりましょう。日本建築防災協会に掲載されている文章は、下記ホームページアドレスから直接ご覧下さい。  
(注：紙面の都合上HPに掲載されている文章から、趣旨を外さない程度に表現を変えています。)

<http://www.kenchiku-bosai.or.jp/seismic/kodate/wquest.html>